

職場パトロールを実施

＝支部安全衛生委員会＝

毎年実施している安全衛生委員会による職場パトロールですが、2月20日、3月18日、3月31日、4月15日におこないました。今期のパトロール重点項目は、昨年6月に労働安全衛生規則が改正され、職場での熱中症対策が罰則付きで義務化されていますので、熱中症対策にどう取り組んでいるか。また、近年はゲリラ豪雨や大雪、突風など自然災害も多発していますので、自然災害対策・マニュアルなどをどうしているのか、になりました。特に車両関係では、大

雪などによる通行止め時に車内に閉じ込められた際の対策を聞き取りしていきます。



パトロールの総括として、熱中症対策は各職場で積極的に取り組まれていました。職場での対策に

加え、質の良い睡眠やバランスの良い食事を心がけるなど規則正しい生活習慣を維持することも予防策となります。災害時の対応については、非常食やモバイルバッテリーの備蓄、緊急連絡網の整備、避難経路のカラー表示など防災意識の向上を図っている職場もありましたが、避難場所の周知がされていない職場もありましたので、引き続き注意喚起していきたいと思います。今後も職場環境の改善と労働災害ゼロを目指してパトロールをおこなっていきますので、安全衛生委員が訪問したらご協力をお願いします。

ご安全に！

（支部安全衛生委員長
関谷 和人）

原発は存続すべきでない

6月7日、雨が降り続くあいにくの空模様の中、うつぼ公園で開催された「原発のない明日を！全国集会inおおさか」に参加しました。近畿各府県や福井県などから、1,100名（主催者発表）の参加者が集まりました。

集会では、福島第一原発事故から15年が経過した今もなお、多くの避難者が故郷を奪われ、廃炉作業も難航している現状が報告されました。地震大国・日本において、ひとたび過酷事故が起きれば避難は困難を極めます。もはや原発は存続すべきではありません。

しかし、政府は、原発の再稼働や老朽化炉の運転延長、新增設へと舵を切り、「原発の最大限活用」を推進しています。ウラン燃料を輸入に頼る原発は、エネルギー自給を阻むだけでな

く、全電力の1割以下の供給のために膨大な資金を費やし、使用済み核燃料という負の遺産を生み続けています。世界が脱原発と再生可能エネルギーへの転換を加速させる中、日本は逆行していると言わざるを得ません。

さらに、耐震データ改ざん等の不祥事は、原発が安全な運用を担保できない施設であることを露呈させました。軍事産業と

密接に関わる現在の政策に対し、私たちは声を上げる必要があります。老朽原発の廃炉を突破口として脱原発を成し遂げ、自然エネルギーで成り立つ社会を実現するため、市民の力で民意を示し続けようと訴えがありました。

集会後は、難波駅まで御堂筋をデモ行進しました。支部からは執行部を含め、6分会から10名が参加しました。

（執行部 宮脇 祥三）



だんけつ

第 403 号 2026 年 6 月 24 日



発行 大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 陣内恒治



◇青年部運営委員 中野 聖也
（大阪港埠頭ターミナル分会）

私は、5月15日から18日にかけて開催された沖縄平和行進に初めて参加させていただきました。これまで沖縄の基地問題や戦争の歴史についてはニュースや書籍などを通じて学んできましたが、実際に現地を訪れ、自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じることで多くの気づきと学びを得ることができました。

今回の行進では、沖縄各地を歩きながら平和の尊さや基地問題について考える機会をいただきました。特に印象に残ったのは、2日目に行われた嘉手納基地周辺での行進です。実際に歩いてみると、基地と住宅地が非常に近い距離にあり、多くの人々が基地と隣り合わせの環境で生活していることを実感しました。行進中には戦闘機が着陸する場面に遭遇し、その際の爆音を体験しました。その短時

間でも大きな衝撃波を受けるほどの音量であり、このような騒音が日常的に続く環境で暮らすことの大変さを想像すると、胸が痛む思いでした。また、現地の方々と直接お話しする機会にも恵まれました。その中で「生まれた時から基地があり、戦闘機の音は毎日のように聞こえる」というお話を伺いました。長年続く騒音問題や基地負担に対する苦勞、そして複雑な思いを知り、改めて沖縄が抱える課題の重さを感じました。テレビやネットでは美しい海や観光地としての沖縄が紹介されることが多いですが、実際に現地を訪れることでしか見えない現実があることを強く実感しました。

最終日には、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆりの塔、旧海軍司令部壕を視察しました。展示資料や当時の記録、戦争の爪痕が残る施設を見学する中で、沖縄戦が住民の方々に与えた甚大な被害と苦し

みについて学ぶことができました。教科書や映像で学ぶことと、実際にその場所を訪れて感じることに大きな違いがありました。戦争は多くの命を奪うだけでなく、人々の暮らしや未来、地域社会そのものを破壊してしまうものであることを改めて認識しました。

平和学習を通じて、平和とは決して当たり前存在するものではなく、多くの犠牲と努力の上に成り立っていることを深く実感しました。また、過去の歴史を正しく学び、その教訓を未来へ受け継いでいくことの大切さも感じました。戦争を経験した世代が少なくなっていく中で、私たち若い世代が平和について学び続け、その思いを次の世代へ伝えていくことが重要だと思います。今回学んだことを、自分自身の経験として終わらせるのではなく、家族や友人、職場の仲間など多くの人に伝えていきたいと思います。そして、平和な社会を維持するために自分に何ができるのかを考えながら、小さなことでも行動に移していきたいと思っています。

最後になりますが、今回の沖縄平和行進の実施にあたり、ご尽力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。多くの学びと貴重な経験を得る機会を与えていただき、本当にありがとうございました。